

# ブラジル CAMIL Itaquí バイオマス（もみ殻）発電プロジェクト

国連登録 0231 : CAMIL Itaquí Biomass Electricity Generation Project



## 排出権の種類: 認証排出削減量 (Certified Emission Reductions、略称CER)

京都議定書で規定された発展途上国への地球温暖化対策のための技術・資金援助スキームであるクリーン開発メカニズム (CDM) のルールに則って温室効果ガスを削減し、その排出削減量に基づき発行される国連認証のクレジット(排出権)

**本事業の概要:** 本バイオマス発電プロジェクトは、ブラジルの精米企業であるCAMIL社が保有する精米施設から排出されている籾殻(もみがら)を再利用することで発電するCDMプロジェクトである。本プロジェクトを行う目的は①「籾殻の腐敗により発生されるメタンガスの発生抑制を行うこと」および②「バイオマス発電を行うことで火力発電の代替電力となり二酸化炭素を削減すること」である。持続可能な開発を目指すブラジルへの貢献を通して地球温暖化防止に貢献することができる。

**期待される効果:** 本プロジェクトを実施した結果、70%の不要な籾殻は再利用され、許可された埋め立て地に処分されていた籾殻は30%になり、2005年の10月以降については93%の籾殻を燃焼させ、7%は処分場に破棄しており、余剰な電力は売却している状況である。このように、外部の化石燃料由来の電力に頼らず、メタンガスの発生を回避することが可能になっている。CAMIL社はリオグランデスール州の東部にあるイタキ市に位置し、米関連製品だけではなく豆類等も扱う現地の大手企業である。当社施設が位置するリオグランデスール州はアルゼンチンの接するブラジル最南端の州であり、大豆などの穀類の生産地として有名である。リオグランデスール州は施設から発生する不要な穀類の殻や搾り粕が腐敗することでメタンを排出しているため、本プロジェクトのようなバイオマス発電はこの地方にとって非常に重要な技術である。また以下のようなコベネフィットな効果が期待されている。・当施設周辺の雇用の増加・化石燃料に頼らない多様な発電源としての価値・本プロジェクトが有益なモデル施設としてブラジル国内に普及すること・多量に存在する不要な籾殻を利用することは、埋め立て施設の負担を軽減させ廃棄物の削減効果があること、など温室効果ガス削減に加えて多様な効果が言及されている。

**推定削減総量:** 400,000 tCO<sub>2</sub>e

**推定年平均削減量:** 57,341 tCO<sub>2</sub>e/年

**対象削減温室効果ガス:** 二酸化炭素 メタン

**クレジット発生期間:** 2001年～2008年

